様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　25 年　6 月　10 日現在

機関番号：14401
研究種目：基盤研究(B)
研究期間：2009～2012
課題番号：21320090
研究課題名（和文）　レトリックの知：英語と日本語による統合的研究

研究課題名（英文）　Rhetorical Literacy: A Bilingual English-Japanese Approach

研究代表者
G Yokota-M　(GERRY YOKOTA)
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：90216242

研究成果の概要（和文）：伝統的な修辞学研究では、レトリックを文化の特徴として捉えることが多く、比較修辞学研究より地域研究にとどまることは多かったが、現代のグローバル社会では、多文化的にレトリックを理解することが求められる。このプロジェクトでは、アメリカ人の日本文学研究者二人と日本人の英文学研究者二人が、特に認知言語学と翻訳理論における比喩研究に基づいて共同研究を行った。四年間を掛けて、(1)誇りや恥のような感情表現に用いられる比喩、(2)毀誉褒貶のような対人評価に用いられる比喩、(3)紛争や震災が起こる場所のゆかりのトポス、(4)翻訳を介した伝統文化の伝搬について共同研究を行うことにより、比喩の力についての知の生産を追及した。

研究成果の概要（英文）：In the traditional discipline of rhetoric, there is a tendency to focus on figurative language as a unique expression of a culture, and so area studies are more common than comparative research. But in this global age, there is a compelling need for greater international understanding of multicultural rhetoric. In this four-year joint research project, conducted by two American scholars of Japanese literature and two Japanese scholars of English literature, selected traditional figures of speech were analyzed from a comparative point of view with a view toward the effective, responsible exploitation of the power of metaphor as well as the development of the skill of rhetorical literacy in order to prevent the abuse of that power to perpetuate racism, sexism and other forms of discrimination. Recent developments in the fields of cognitive linguistics and translation theory were especially drawn upon in order to elucidate issues of translatability in areas such as the expression of mental states such as pride and shame, personal evaluations such as praise and blame, the metaphorical effect of topoi, and the role of rhetoric in the transmission of traditional culture.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	5,400,000	1,620,000	7,020,000
2010 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2012 年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
総　計	9,000,000	2,700,000	11,700,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・英語学
キーワード：文体、レトリック、修辞学、翻訳、比喩、認知言語学、トポス、ジェンダー

１．研究開始当初の背景
日英古典文学におけるレトリックの系譜を整えることにより、異文化コミュニケーションの向上に繋がるという確信の元、多彩で効果的なコーパス範囲を決定し、成果に導く確率の高い認知言語学および翻訳理論の基礎研究についての相互理解を確認した。

２．研究の目的
「知は力なり」と言われるが、「知」を「もの」として捉えるのではなくて、発揮するスキルとして捉えることにより、発信者にとっては上手く比喩の力を利用するスキル、受信者にとってはレトリックの悪用に騙されたり傷ついたりすることのないための護身術を備えて国際人として活躍できる人間を養成する教育に貢献することを狙った。

３．研究の方法
翻訳を介して失われるもの、加えられるものについて解明するために、まず、数世紀に渡って異文化理解のために頼りにされてきた古典文学の複数の翻訳書を比較することにより、その系譜を構築した。
(1)日英古典文学および現代文学における誇りや恥のような個人の感情表現に用いられる比喩を収集し、認知言語学や翻訳理論の手法を用いて原典と翻訳を比較分析した。
(2) 日英古典文学および現代文学における毀誉褒貶のような対人評価に用いられる比喩を収集し、原典と翻訳を比較分析した。
(3) 日英古典文学および現代文学における紛争や震災が起こる場所のゆかりのトポスを収集し、原典と翻訳を比較分析した。
(4) 日英古典文学および現代文学の翻訳の比較分析により、伝統文化の伝搬について考察した。

４．研究成果
(1)現代国際社会では、古典文学よりインターネットで得られる情報や映画・アニメのようなポピュラー・カルチャーが異文化コミュニケーションの主流メディアになってきている。しかしながら、その背景に、久遠の神話、象徴、イメージが潜在的に存続し、現代のアーティストの多くがその人類の遺産を直接参考にしたり、間接的に伝播したりしている。「文化的帝国主義」のリスクを意識しながら、普遍的なメタファーやシンボルの力を再確認することにより、その受け方および送り方の問題について正しく理解することの大切さについて改めて確信した。誇りや恥のような個人の感情表現に用いられる比喩や、毀誉褒貶のような対人評価に用いられる比喩などの性差について特に発見が多く、この成果を一刻でも早く図書としてまとめ国内外に発表したい。
(2)今回のプロジェクトは日英古典文学の翻訳の比較に限定したが、今後の展望としてはポピュラー・カルチャーにおける古典の翻案まで範囲を広げ、今回の成果に基づいて更なる分析を行いたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 17 件）
①G Yokota-M、Noh and the Rhetoric of Tradition: Gender, Cultural Capital, and the Economics of Scarcity、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2012) ：レトリックの伝統と伝搬、55-62（印刷中）
②渡辺秀樹、英語動物名メタファーの構造性：複合語グループ・関連同氏と転用動詞・総称名と下位語のメタファー用法、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2012) ：レトリックの伝統と伝搬、1-18（印刷中）
③大森文子、英語動物名のメタファー：馬の象徴的意味と比喩、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2012)：レトリックの伝統と伝搬、19-28（印刷中）
④G Yokota-M、"Always": Nostalgia and the Representation of War in a Popular Japanese Film 、Proceedings of the International Conference on Visions of Peace, Memories of War: Filmic Representations of World War Two in China, Japan and Korea、香港理工大学、2012. 2、48-61
⑤ G Yokota-M 、Topos, Tradition, Translatability: A Study of the Function of Michinoku in Noh、 大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2011) ：トポスのレトリック―：場所・定型表現・認知―、 87-102
⑥ 渡辺秀樹、英語の魚介類名・爬虫類・両性類名の人間メタファー：英語動物名のメタファー、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2011) ：トポスのレトリック―:場所・定型表現・認知―、37-48
⑦大森文子、動物界の王者とトポス：英語動物名の比喩義の構造、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2011) ：トポスのレトリック―：場所・定型表現・認知―、59-71
⑧村上スミス アンドリュー、「大阪物」の文

学作品における空間と場所、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2011) ：トポスのレトリック―：場所・定型表現・認知―、71-78
⑨G Yokota-M、Innovations by Contemporary Women Artists in the Classical Noh Drama of Japan 、Proceedings of the 6th Biennial International Gender and Language Association Conference、2011.1、427-437
⑩G Yokota-M、Gender and the Rhetoric of Submission in Noh: With Special Emphasis on the Image of the Dragon、 大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2010) ：文化とレトリック認識、35-50
⑪渡辺秀樹、シェイクスピアにおける賞讃と罵倒のレトリック：動物名人間比喩用法の対義・類義の構造、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2010) ：文化とレトリック認識、1-20
⑫大森文子、陥天使の変容と感情：Paradise Lost におけるメタファーの構造性をめぐって、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2010) ：文化とレトリック認識、21-34
⑬村上スミス アンドリュー、文学翻訳のレトリック：言文のレトリック、訳文のレトリック、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2010) ：文化とレトリック認識、51-62
⑭G Yokota-M、Gender and the Rhetoric of Shame in Prewar English Translations of Noh、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2009) ：レトリックの文化と歴史性、29-42
⑮渡辺秀樹、古英語英雄詩 Beowulf の日本語訳 10 種の比較：原典のテーマ・繰り返し表現・比喩の訳出方法、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2009) ：レトリックの文化と歴史性、1-14
⑯大森文子、シェイクスピアのソネットにおける愛と賞讃のメタファー―6 つの翻訳をめぐって―、大阪大学大学院言語文化研究科言語文化共同研究プロジェクト(2009) ：レトリックの文化と歴史性、15-28
⑰村上スミス アンドリュー、日本文学作品の英訳で失われるもの、加えられるもの―登場人物の感情・人格を中心に―、大阪大学大学院言語文化研究科　言語文化共同研究プロジェクト(2009) ：レトリックの文化と歴史性、43-56

〔学会発表〕(計 11 件)
①G Yokota-M、Gender Literacy and Critical Thinking、JALT Pan-SIG Conference、広島大学、2012.6
②G Yokota-M、Rhetorical Literacy and the Language of Crisis in Japan、ACLA2012(アメリカ比較文学会)、ブラウン大学、2012.4
③G Yokota-M、"Always": Nostalgia and the Representation of War in a Popular Japanese Film、International Conference on Visions of Peace, Memories of War: Filmic Representations of World War Two in China, Japan and Korea、香港理工大学、2012.2
④G Yokota-M、 The Rhetoric of Diaspora、PGL2011 (Peace as a Global Language)、甲南大学、2011.12
⑤G Yokota-M、Rhetorical Literacy and Conflict Resolution: Fostering a Culture of Respect、PGL2010 (Peace as a Global Language)、国際基督教大学、2010.12
⑥G Yokota-M、The Power of Metaphor: Pandora's Box、JALT2010、名古屋、2010.11
⑦G Yokota-M、Representations of Gender in New Noh by Japanese Women: Tradition and Innovation. IGALA6 (国際ジェンダーと言語学会)、津田塾大学、2010.9
⑧G Yokota-M、Who Makes the Rules? Exposing Hidden Codes in Translations and Adaptations of Noh、ACLA2010 (アメリカ比較文学会)、New Orleans、2010.4
⑨G Yokota-M、Theorizing Literature of Millennial Witness、東アジア芸術と社会ワークショップ、シカゴ大学、2009.11
⑩ G Yokota-M 、 Rhetorical Literacy: Tradition and Innovation in the Rhetoric of New Noh、比較文学部・演劇学部・東アジア学部共催フォーラム、カリフォルニア大学アーヴァイン校、2009.11
⑪G Yokota-M、Literature of Millennial Witness: The Tale of Genji in New Noh、東アジア研究コロキウム、プリンストン大学、2009.9

６．研究組織
(1)研究代表者
G Yokota-M　(GERRY YOKOTA)
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：90216242

(2)研究分担者
渡辺　秀樹　(WATANABE HIDEKI)
大阪大学・大学院言語文化研究科・教授
研究者番号：30191787
大森　文子　(OHMORI AYAKO)
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授
研究者番号：70213866
村 上 ｽ ﾐ ｽ　ｱ ﾝ ﾄ ﾞ ﾘ ｭ ー (ANDREW

MURAKAMI-SMITH)
大阪大学・大学院言語文化研究科・准教授
研究者番号：60324836

(3)連携研究者
(　　)

研究者番号：